

(翻訳) スコットランドの大学での図書館情報学のオンライン学習

2017年 2月 14日 (火) 10:00 ~ 12:00

話し手：フィオーナ・コリンズ氏 (上海西華国際学校ヘッド・ライブラリアン)

聞き手：中村百合子 (立教大学准教授)

(中村) 今日までのあなたのキャリア形成の経験はどのようなようでしたか。

(コリンズ氏) 香港にある英国式のカリキュラムの小学校のライブラリアンからはじめました。その学校は国際バカロレア (International Baccalaureate: IB) 学校になろうと改革をはじめていました。18ヶ月後に、K-12 (幼稚園から第12学年まで) すべてが国際バカロレアの学校に移りました。そして1年、上海で別の英国式カリキュラムの学校に勤め、そして今の上海西華国際学校に2009年9月に移りました。全校を担当するスクール・ライブラリアンをしたあと、ヘッド・ライブラリアン (図書館長) になって、ライブラリアンとアシスタント合わせて5名のチームを作りあげました。現在は、中等教育で主に働いています。もう一人のライブラリアンも英国から来ており、彼女はより小さな子どもたちと働いています。

私にとっては、学校が国際バカロレア学校かそうでないかが、別の学校に移るときの判断に影響してきました。国際バカロレア学校は、児童・生徒により多くの、状況を考慮した学習 (situation-based learning) の機会を提供します。それは一つの学習の方法ですが、探究に基づいており、とても実践的であり、児童・生徒に概念やスキルを学ばせます。それはまた、学習は決して終わらないという考えでもあります。生徒からのレファレンスは、伝統的な学校で受け取るようなものではありません。私が国際バカロレア学校について知る機会を得たのは、私の二人の子どもを上海と香港でこのタイプの学校に入れたからでした。私はそれがとても好きでした。

図書館情報学のオンライン学習を終えたのは、香港にいたときでした。私は、ALESSつまり、香港の英語で教育を行っている学校のライブラリアンの協会の一員になりました。そのグループにたくさんの刺激を受けました。実は私はまだその協会の会員なのですが、インターナショナル・スクールのスクール・ライブラリアンたちで似たグループを上海で結成することを決めました。会員数は40名くらいで、おそらく80名ほどになっている香港や北京の姉妹グループと比較すれば、私たちは小さいのですが、でも活発です。毎月、会合をもっています。著者と呼んだり、講演をしたりしています。

(中村) なぜ、ロバート・ゴードン大学が提供するオンライン・コースを通じて勉強したのですか。

(コリンズ氏) まず、CILIP (英国の図書館・情報専門家協会) に認定されている。アジアに住んでいて、対面授業に出席することなく、オンラインで学習するという選択肢である。そして、英国の学習や単位のシステムを理解していることなどによります。米国のオンラインのプログラムも見てみたのですが、英国の教育システムで学習するほうが、将来、もしも英国に帰るときにはいいだろうと思いました。アメリカの大学の学費の方が英国よりも高いだろうとも想像できましたけれど、それを当時、確認はしていません。アバディーンで生まれたのですが、生後1年しかいなくて、去年まで一度も戻ったことはありませんでした。2016年に生徒たちをそこに連れて行ったのですが、それはただの偶然です。私のもともとの教育背景はテキスタイル (繊維) ですが、この分野のこんな遠くまで来てしまいました!

(中村) オンラインのコースを通して学ぶようにあなたを動機づけたのは何ですか。

(コリンズ氏) 私が子どもたちを上海のインターナショナル・スクールにはじめて送ったのは2002年で、学校図書館でボランティアをはじめました。上海西華国際学校の図書館を訪れる機会があり、すばらしいと思いました。そして図書館情報学を学びはじめを決めました。二人の小さな子どもたちがいて、フルタイムでは働いていませんでした。オンラインでの勉強という選択肢は、私の残りの生活の合間に勉強するということがうまく合っていました。

(中村) コースはいつはじめて、いつ終わりましたか。

(コリンズ氏) 2年間、2004年の9月から2006年の6月までです。

(中村) 勉強はどのように進展しましたか。各学期に何の科目を取りましたか。可能でしたら、月と年、科目名、クラスの責任者の教授を。

(コリンズ氏) 次の科目を取りました。9週間続いた現場実習 (Fieldwork Placement) 以外すべての科目は、個人的な学習に近かったと思います、通信教育のような。

- テクニカル・サービス
- 情報マネジメント：方針の決定過程と利用
- 情報資源マネジメント
- 主題の特定
- レファレンスおよび問い合わせのサービス
- 調査法

これはプログラムの最後の科目でした。ですが、本当に興味のあるトピックが見つけれなくて、正直に言うと、そのトピックすら思い出せません。これが、私が修士号に向けて学修を進めないとした理由の一つです。ディプロマ (Post-Graduate Diploma) を修得して、私はプログラムを去りました。

- 現場実習
香港で2年間、ボランティアをしましたが、そのうち9週間の仕事をこの単位のために大学に報告しました。
- 情報学

(中村) とても印象的だったクラスやできごとはありますか。

(コリンズ氏) 「レファレンスおよび問い合わせのサービス」と「現場実習」がもっとも興味深かったです。

(中村) 全体として、教育には満足していますか。

(コリンズ氏) はい。慣れるのに少しかかりましたが、とても柔軟な学習方法でした。それ以来、一つ、またさらにオンラインのコースに進みました。2012年には教育のディプロマを取り、2010年には英語教授法 (TESL) の資格を取りました。これまでのところは、図書館情報学で修士号が必要とは思っていません。むしろ、教育についてもっと学びたいです。

(中村) オンラインの学生に対する支援はどうでしたか。例えば、メンターがいましたか、その彼もしくは彼女はどのように支援してくれましたか。

(コリンズ氏) オンラインのフォーラムが、コースにいる仲間たちとのコンタクトを維持す

るのにとっても有用です。授業の最初の段階では、すべての学生がフォーラムで自己紹介をしましたが、でも今になるとほとんどのクラスメイトを思い出せません。勉強しているときに、一人のクラスメイトに会って、彼女とは連絡を取り合っていますが、覚えているのは彼女だけです。それが大きな問題だとは思いません。それぞれの科目にチューターがいました。反応がいい人もいれば、そうでない人もいました。

(中村) オンライン教育について今、どう思っていますか。よい点、もしあれば悪い点、または課題を。

(コリンズ氏) 特に、フルタイムの仕事があるなら、とても柔軟な学習方法です。顔を合わせて付き合ったり、人脈を作ったりする機会は失ういっぽうで、求められる学修を他にやるべきことと共にやりくりするのはより簡単です。授業に出席しなければいけないというよりも、精神的も物理的にももっともできそうだと感じるときに作業をするを選ぶます。時間管理は、自分が作業をするペースや時間を設定するのですし、他のことが優先される場合もありますから、課題になり得ます。ティーンズのような若い人たちは、集中するのが難しいと思ったり、十分な自制心がなかったりするので、より難しいと感じるかもしれません。この勉強の機会が自身の将来を変えるだろうとわかっている人たちにとっては、オンラインで学修することが難しすぎるということはないでしょう。

(中村) ヘッド・ライブラリアンとして働いていて、オンラインの教育を通して勉強した、何の知識やスキル、もしくはどの分野が有用ですか。

(コリンズ氏) 「レファレンスおよび問い合わせのサービス」の科目で、学校で児童・生徒を支援し、彼/彼女らの情報リテラシーのスキルを高めるための準備ができました。けれども、過去10年で物ごとがとても早く移り変わり、それらの科目は今ではもうそれほど実質的な意味はないでしょう。科目群は、これを反映して、更新されてきています。

今、私はもっと、この学校で教師たちを訓練することに力を入れています。毎年、3回もしくは4回は図書館で教師たちのために機会を提供しています。図書館へのオリエンテーション、児童・生徒への期待、学術的な誠実さ、データベースといったことです。

(中村) 英国の大学が提供するオンライン教育を通して学んで、中国の学校では特別な課題があると思いますか。

(コリンズ氏) インターネットの速度、特定のサイトへのアクセスです。

上海西華国際学校のすべての生徒は、第10学年で、個人プロジェクトを仕上げなければならず、3,500ワードのレポートを書かないといけません。卒業前には、4,000ワードの課題論文(国際バカロレア)を、書かなければいけません。こうした課題のために、生徒たちは自身の調査を行う必要があります。ここには、保管部屋にある教科書を除くと、約3万冊の図書しかありません。中等教育学校の生徒たちは、インターネット上で調査をはじめめる傾向があります。図書を入手するにはいくらか困難があります。香港ではそれは大きな問題ではありません。香港は公共図書館の制度もよいです。けれど、ここ上海では、外国人が公共図書館を使うにはお金がとてもかかり、また上海の大学とのつながりもまったくありません。私たちには、この地域のインターナショナル・スクール間の交流しかありません。ですから、図書は読書、読書推進のためのもの、という意味合いです。児童・生徒の親たちがときどき、日本語など、彼らの言語についてよいコレクションを作るのを手伝ってくれています。

(中村) 現在の図書館情報学教育の状況について何かお考えはありますか。

(コリンズ氏) 現時点で、図書館情報学教育についてはたくさんの方がいます。デジタル化社会を生き抜こうとしている児童・生徒が直面している挑戦に気づいている、資格をもったライブラリアンがかつてないほど必要とされています。Coursera や FutureLearn のようなオンラインのコースが、ロバート・ゴードン大学のもののような認定を受けたコースの他にもっとあります。多くの学校は、アメリカ合衆国やオーストラリアの制度のようなティーチャー・ライブラリアンを今、探しています。これが、英国の図書館情報学教育の一つの道かもしれません。